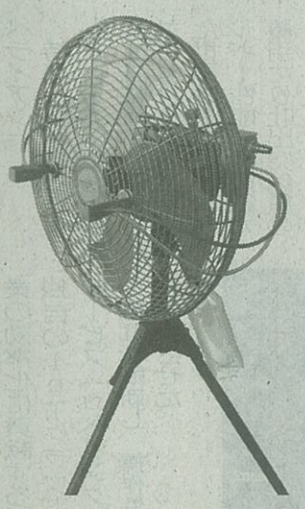
工場扇向けミストシステム



アクアシステムが発売

アクアシステム（滋賀県彦根市、0749・47・5215）は業界初の完全エア駆動式ミストシステム「クールミスター」を発売した。後付け可能なタイプで、現在使用中の工場扇や扇風機に対応。最大冷却効果はマイナス8度（本体より50cm以上離れた場合）を実現し、エア駆動なため、火気厳禁エリアでも使用可能で、現場の熱中症対策や静電対策に最適だ。

最大冷却効果マイナス8を実現
火気厳禁エリアの熱中症対策に

「クールミスター」は工場扇や扇風機に取り付けて使用できる水道直結ではないミストシステム。2つのノズルを工場扇や扇風機のカバーに取り付け、バルブでミストや風量を調整し、首振り機能を活用すると、広い範囲を冷却することができる。

給水は専用容器（オプションで10ℓタンクあり）を用いて、1ℓで8時間稼働することも可能。節水効果も高くSDGsにも貢献。化学プラントや塗装工場、薬品工場など火気厳禁エリアや防爆区域などの熱中症対策や静電対策に適している。

対応駆動源はエア式専用（ACM-A）と電動式専用（ACM-E）を用意。取付可能な商品は同社工場扇シリーズのスタンド型（AFG-18NL/24NL）、フロア型（AFF-18NL）、壁掛型（AFK-18NL）に対応している。

日本シグマックス

製造、物流現場の作業負担を軽減

アシストスーツや冷却服を展開

医療用やスポーツ用サポーターなどを手掛ける日本シグマックス（東京都新宿、03・5326・3200）が製造や物流現場の作業負担を軽減する製品を展開している。これまで医療やスポーツの現場で培ってきた技術を応用し、腰痛対策や暑熱対策製品を開発。幅広い産業分野の需要を開拓していく考えだ。

もともと医療用品を取り扱う会社として1973年に創業した。まもなく自社設計のサポーター製品を販売開始。現在、医療用サポーターではトップシェアを誇り、同社売上の6～7割を占めている。また、93年にはスポーツ向けブランド「ZAMST（ザムスト）」を設立。スポーツ用ケア・サポート製品も展開してきた。

医療、スポーツの2本柱で事業展開する中、2016年に心身の健康増進を図るウェルネス向けブランド「MEDIAID（メディエイド）」を立ち上げ。日常生活での膝や腰、手首などの関節をサポート・ケアする製品を発売し、新たな市場開拓に取り組んでいる。

この「メディエイド」で、21年頃から新たに展開しているのが作業現場での身体的負担を軽減する「ワーカーズケア」の領域だ。近年、少子高齢化に伴う人手不足や、温暖化による酷暑などによって、あらゆる産業分野で労働環境の改善が急務となっている。こうした現場に対して、「メディエイド」主力商品の関節サポーターのほか、アシストスーツや暑熱対策製品などの新製品を開発し、提案を強化している。

アシストスーツでは動力を用いない「メディエイド アシストギア腰ユニット」を展開。着用時のかさばりや重さを減らしたサポーター型のアシストスーツで、作業者の腰の負担を軽減する。今年3月にはアシストスーツメーカーのイノフィス（東京都八王子市）との協業を発表し、両社の技術を組み合わせた製品開発に取り組む。初夏には新製品の発売を予定している。

一方、暑熱対策製品は「メディエイド アイシングギア」としてシリーズを展開。22年に首元を冷却する製品を発売したほか、23年4月にタンク一体型水冷服「アイスパックベスト」を発売した。タンクに少量の水と保冷剤を入れ、バッテリーによって冷水が循環する仕組みで、ファン付きベストよりもさらに冷えを感じることができる。

さらに6月にはペルチェ素子を用いた「アイシングギアベスト」を発売。タンクや保冷剤を使わずに一定温度で冷やすことが可能になり、動きやすさや軽さを確保した。

ウェルネス事業の売上規模は全体の1割にも満たない。一方で、「まだまだ広がりがある領域。潜在的な需要は高いとみている」（ウェルネス事業推進課の宮地早紀マネジャー）。同社は今後、「ワーカーズケア」製品を幅広い産業分野に拡販し、さらなる成長を目指す。

アイスパックベスト

アシストギア

創業100周年で祝賀会

田野井製作所

代理店など120人が節目祝う

タップ・ダイスメーカーの田野井製作所（埼玉県白岡市、0480・92・1731）は5月12日、東京會舘（東京都千代田区）で創業100周年記念祝賀会を開催した。販売代理店や協力企業など約120人が出席し、節目を祝った。

同社は1923年にタップ・ダイス専門メーカーとして創業。日本で初めて盛上げタップを開発したほか、独自開発のCNCねじ研削盤を導入し、タップにドリルとリーマの機能を持たせた「T-スパイラル」や、加工しためねじのシームを除去する転造タップ「シームレスタフレット」など、付加価値の高い"オンリーワン製品"の開発を続けている。

祝賀会では、白岡市長の藤井栄一郎氏が「今の白岡市があるのは、田野井製作所があるからだと思っている。これからも永く栄えてもらいたい」と祝辞を述べた。田野井優実社長は「この先、150年、200年と続くように一層精進していく」とし、田野井義政会長は「これからも変わらず田野井製作所を愛してほしい」と話した。

タナカ善 自社展が大盛況

2日間で600人超え

機械加工や補修関連も

タナカ善（京都市伏見区、075・612・6900）は5月19・20日の2日間、京都府総合見本市会館パルスプラザ（京都市伏見区）で恒例の「2023京滋マシン&ツールソリューションフェア」を開き、268社615人の来場者で賑わった。工作機械や切削工具、工作機器、測定機器、CAD/CAMなど90社以上のメーカーの製品やサービスを展示し、機械加工や加工周辺に関する課題を解決する場として提案を行った。

同展は工作機械や切削工具など機械加工に関連するメーカーを一堂に集め、ユーザーにじっくり見てもらい、相談できる場として人気を博している。田中善隆社長は「JIMTOFなど大型展は加工関連のみならず修メンテナンスメーカーも出展。ナ禍でソーシャルタンスを取った展だったが、それもたことで、展示ができ、出展メー増やすことができるという。さらに、昨R（リデュース・ス・リサイクル）から補修やメンテ需要も高く、配管や簡単にメンテきる商品などの展立った。

最新技術を担当者とる場で、メ話をするのい。地域ザーの課題カーと一緒場を整える社の役目す。また、従来の工作切削工具な

各地で総会

視察研修やセミナーを予定

奈良機械工業協組

4月1日付で新社長に就任した岸田貢司社長が、社長就任にあたり自らのキーワードとして掲げた「進取果敢」を披露。「自ら進んで積極的に事を為し、強い決断力で大胆に突き進む。この気概をもって事業を推進していきたい」とした。前社長の長尾雄次会長も「チーム岸田に期待してつあり、景気の上向きが期待されているが、中小の製造業はエネルギーコストの上昇や原材料の高騰が続いている。その中で、今年度は従来事業である視察研修会やボウリング大会などを復活させ、組合員のニーズに応じた事業を展開したい」弘社長は、出席したメーカーを代表して「山善様と共に未来を切り拓くべく、共に成長したい」と述べ、CKD・奥岡克仁社長も「山善様と一緒に新しい市場、未来を切り拓くことを実現したい」とした。

佐々木公久専務は「営業本部として営業力強化と組織のクロッシングをエース会を開催。関西・北陸の主要販売店174社が参加して結束を誓った。

今年4月に就任したばかりの岸田貢司社長は、2022年3月期決算及び中期経営計画の進捗状況を報告し、「進取果敢なプロアクティブな会社を目指し、皆さんと共に未来を切り拓いていきた皆様にお役に立つ情報をスピード感をもってお届けする」として、より強固なパートナーシップと一体となった営業活動を呼び掛けた。

大阪山善エース会の会長を務める西川産業・西川正一社長も「エース会メンバー各社への大きな支援と、仕事を通じての提携・連帯・協業などの

炭協会本部会の家城淳会長（オークマ社長）は「ユアサ商事さんは今決算で過去最高の利益を記録した。標榜する『つなぐイノベーション』の効果を感じさせてもらった。自動化やAIの活用などが進む中、炭協会としては今後もユアサ商事さんの取り組みに貢献できるようにしたい」とあ

一致団結して共に成長を

大阪ジーネット会

3月期には売上高6000億円、経常利益200億円の目標を発表した。

晴らしい製品ソリューションと我々の開発ソリューションによって、従来と異なる付加価値を加えながら、ユーザーに提案していきたい」と挨拶した。

大阪支社・宮地和孝取締役支社長も「我々の役割は、メーカー様の素晴らしい商品・技術、経営統合によって得た新たな

23年度105億円目指す

テヅカMTA春季総会

たか』というユニークな発想をお願いする」と期待を表した。

億円を目標にしたい」と述べた。各地域で講演会などの「テヅカ会」を活発に行うほか、合わせて、創業の地である銀座のテヅカ銀座ビルを建て替えることも報告した。

続いて、三橋大輝営業本部長が営業状況と拡販施策を報告。「主力の切削は0・3%増の微増のいとどまった一方で、工作

ダイジェット工業「ハード1面達」

面取りやV溝センタリング

ダイジェット工業（大阪市平野区、06・6781・9161）硬度材を高速で（90度）加工で